



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 馬場 一美
編集責任者 広報委員長 丸岡 靖史
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151(代表)
いちいちごいち

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

新型コロナウイルスとの瀬戸際の攻防—3密の徹底回避がその鍵となる— 口腔リハビリテーション科 診療科長 高橋 浩二

世界保健機関(WHO)が3月11日に「パンデミック(世界的な大流行)とみなせる」と宣言した新型コロナウイルス感染症の猛威は留まることを知らず、安倍首相は4月7日に7都府県を対象地域とした新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言を発し、その僅か9日後の4月16日には対象地域を全都道府県に拡大することとなりました。

2003年に流行した新型コロナウイルス感染症であるSARS(重症急性呼吸器症候群)は感染者のほとんどが肺炎、下痢などを発症し、感染者が見逃されることがなかったため、最初の報告例から8か月以内で終息しました。一方、今回の新型コロナウイルス感染症では軽症や無症状の感染者が多く、「見えない」感染の連鎖が大きな特徴であるため、SARSと比べると終息までにはずっと長い期間が必要であることは明らかです。今回の緊急事態宣言は期限を5月6日としています。感染者数の推移から更なる期限の延長が危惧されています。

さて、一人の感染症患者から感染する人数を基本再生産数といい、基本再生産数2というのは一人の患者から二人の患者が感染することを示し、その連鎖が10回続くと感染者数は2の10乗すなわち1024人と爆発的に増加します。このような爆発的増加を阻止するためには、多数の免疫保持者が感染の対象集団に存在することが必要となります。例えば麻疹(はしか)の基本再生産数は16~21と極めて感染力が強いウイルス疾患ですが、ワクチン接種により麻疹に対する免疫保持者は日本では90~95%であるため、感染拡大が阻止されています。このように集団における免疫

保持者の割合(集団免疫率)が高ければ感染症の拡大を阻止することが可能となります(表1)。

一方、免疫保持者の割合が低くても、ウイルスの感染経路から“逃げる”ことによって基本再生産数を1未満に抑えれば、やがて0へと収束していきます。

この感染経路から“逃げる”ということは人と人の距離をとること(Social distancing; 社会的距離をとる)であり、①密閉空間 ②密集場所 ③密接場面という3つの条件(3密)を避けることです(図1)。一人一人が国難に直面していることを自覚し、不要不急の外出を控え、3密を避けることを徹底することによってのみ、この未曾有の感染症の収束及び終息を迎えることができるのです。



感染症	基本再生産数	集団免疫率(%)
麻疹	16-21	90-95
ムンプス	11-14	85-90
風疹	7-9	80-85

表1 主なウイルス感染症の基本再生産数と集団免疫率
(国立感染症研究所の資料を改変)



図1 3密を徹底して避けましょう。
(厚生労働省の資料を改変)

診療科紹介:口腔リハビリテーション科

口腔リハビリテーション科 診療科長 高橋 浩二

常勤スタッフは歯科医師10名(大学院生4名含む)と言語聴覚士2名で、そのほかに非常勤講師の歯科医師3名と筋機能療法担当者1名が診療に参加しています。発音障害の患者さんは歯科医師が構音器官の形態、動きと感覚を検査した後、言語聴覚士が訓練指導を担当し、機能改善装置が必要な場合は歯科医師と言語聴覚士が協働して診療にあたります。歯科病院各科、医学部病院各科、他大学病院、癌専門病院、地区歯科医師会・医師会とも連携医療を展開しています。また北海道大学、九州大学など全国から患者さんの紹介を受け、米国から当科を紹介された患者さんもいらっしゃいます。また、訪問による摂食嚥下診療(当院より直線距離で16km以内)や3日~5日程度の入院下での集中訓練も行っています。

既存の各種機能評価装置や検査時状況画像・呼吸音と嚥下音・嚥下機能検査画像の同時記録システムなどを用いて正確な診断を行い、治療では従来の治療法に加え、当科で工夫した独自の治療法(図1)を実施することにより、既存の治療法より早期に良好な結果を得ています。また治療結果を客観的に判定するために治療前から感覚機能と運動機能を各種評価装置を用いて定量評価しています。

1. 摂食嚥下障害に対する治療

脳卒中や頭頸部癌の術後、先天性疾患などによる摂食嚥下障害に対し、既存の機能訓練法に加え、患者さんに応じて当科で工夫した独自の訓練法、嚥下補助装置、当科独自の機能改善装置、顎補綴物などを適用することにより、早期に確実な改善が得られています。

2. 発音障害に対する治療

言語聴覚士がマンツーマンで言葉の訓練を行うことに加え、必要に応じて発音補助装置を歯科医師が作製し、その調整を言語聴覚士と協働で行うことにより、効率的な改善効果が得られています。

3. いびきや閉塞性睡眠時無呼吸症候群の治療
口腔内装置を作製します。なお、診断や装置の効果判定は紹介元医療機関あるいは当院内科クリニックで行います。

4. 口腔筋機能療法(MFT)、フェイスニング

舌癖などの異常習癖に対する口腔筋機能療法(MFT)や、魅力的な笑顔を得るためのフェイスニングを行います。

5. 昭和大学病院頭頸部腫瘍センターでの診療

専任1名と兼任3名の歯科医師と歯科衛生士1名が月曜日から土曜日まで摂食機能療法、周術期口腔機能管理、外科手術中の咬合誘導装置・創部保護床・顎補綴物・放射線治療中の被曝防御・顎位固定装置などの作製・調整を同センターの医師・歯科医師と協働で行っています。

6. 本学附属烏山病院精神科病棟での診療

毎週火曜日終日、専任1名と診療補佐の歯科医師により摂食機能療法を行っています。

7. 本学横浜市北部病院精神科病棟での診療

毎週木曜日の午後、歯科医師1名により摂食機能療法を行っています。

2019年度主な検査・症例数 (歯科病院)

嚥下造影検査137症例 嚥下内視鏡検査83症例
顎補綴物・機能改善装置作製数300症例
訪問診療228症例 構音障害診断・訓練症例1693症例

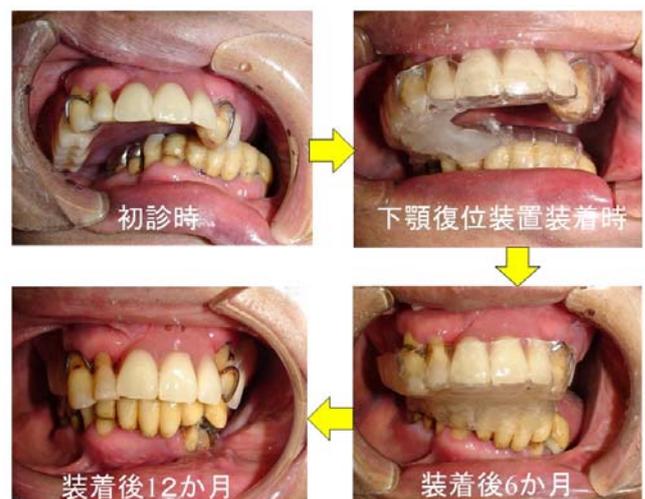


図1 当科独自の下顎復位装置を用いた治療

診療の流れ:顎関節症治療科

顎関節症治療科 診療科長補佐(助教) 佐藤 多美代

顎を動かすとカクカク音がする、顎が痛い、口を大きく開けられない、噛み合わせに違和感があるなどの症状がある場合は顎関節症の可能性があります。原因を探るために丁寧な医療面接と検査を行って診断し、治療法を決定します。顎の状態がいつもと違うと感じたら、お気軽に当科にご相談下さい。

医療面接と検査

医療面接では、症状の発現した時期、部位、症状の種類、原因となる生活習慣の有無などを詳しく伺います。口腔外診査では患者さんの顎を触診して、顎の雑音の有無、痛みのある部位とその強さ、開口量の計測、顎のずれの有無を確認します。口腔内診査では口の中の状態、噛み合わせの状態を確認します。必要に応じて画像検査として、レントゲン検査、CT検査、MRI検査を行うことがあります。

治療法

●習癖是正認知行動療法

顎関節症の原因は1つではなく、昼間の食いしばりや頬杖などの癖、片咀嚼、夜間の歯ぎしり、ストレス、楽器演奏、スポーツ、外傷などが挙げられており、これらの原因が積み重なって限界を超えると発症すると考えられています。特に、仕事をしているとき、パソコンを操作しているとき、考え事をしているときなどに無意識に上下の歯を接触させる癖を持っている患者さんが多く存在します。この

癖は顎関節や顎の筋肉に負担を与えますので、習癖を認知してもらい是正する治療が必要です。

●リハビリトレーニング

口を大きく開けられない場合は、開口練習をしてもらうことで開口量を改善します(写真1)。顎の筋肉のストレッチ効果もありますので、筋肉の痛みに対しても有効です。筋肉に痛みがある場合にはいわゆる“こり”が触診できるので、この部位をマッサージすると痛みが軽減することがあります(写真2)。

●スプリント療法

顎関節に痛みがある場合には、顎関節への負担を軽減する目的で就寝時にスプリントと呼ばれる装置を装着することがあります。マウスピースやナイトガードとも呼ばれています。スプリントは歯のすり減りを防止することもできるので、歯ぎしりをする方にも使用することがあります。

●薬物療法

顎関節や顎の筋肉の痛みが強い場合には、鎮痛薬などの薬物療法が有効な場合があります。

●トリガーポイント注射

顎の筋肉の痛みが強くりハビリトレーニングを行うことができない場合には、筋肉の“こり”の部分に局所麻酔薬を注射して疼痛を軽減するトリガーポイント注射を行うことがあります。

●パンピングマニピュレーション

顎関節の動きが悪い場合には、局所麻酔薬を顎関節部に注射し顎の引っかかりを外すパンピングマニピュレーションを行うことがあります。



写真1 開口練習



写真2 筋マッサージ

新入職員ご挨拶

研修医としての生活が始まり、充実した日々を過ごしています。これから一年間医療人としての自覚を持ち努力していく所存です。

臨床研修歯科医師 前村 美希

晴れて歯科医師になることができたことを嬉しく思います。医療人としての自覚とプライドを持ち、研修に臨みたいと思います。

臨床研修歯科医師 三木 優

いち研修医として、修了時には基本的な歯科知識および技術を取得し、謙虚な気持ちを持ちながら精進していきたいと思っています。

臨床研修歯科医師 佐久間 怜那

ものすごいスピードで進化していく歯科医療技術。自分も最前線で携わっていけるよう向上心を常に持ち、毎日勉強していきたいと思っています。

臨床研修歯科医師 瀬川 裕之

幅広いライフステージの患者さんから信頼していただける歯科衛生士になれるよう、精進していきます。

歯科衛生士 鈴木 絢子

医療従事者としての自覚を持ち、明るく笑顔で皆さまに貢献できるよう日々努力いたします。

歯科衛生士 小林 圭希

1日も早く患者さんに信頼される歯科衛生士になれるよう、向上心を持って日々精進します。

歯科衛生士 相川 怜穂

歯科についての知識をより多く身につけ、来院した患者さんに丁寧な対応ができるよう日々努力を重ねていきたいと思っています。

事務課医事係 杉本 紗亜弥



臨床研修歯科医師 オリエンテーションの様子



編集後記

緊急事態宣言が出され、不要不急の外出を控えるようになっております。当院も処置を限定せざるを得ない状況になっており、皆様にはご迷惑をおかけしております。申し訳ありません。ただ、皆様で協力し合ってこの危機を乗り越えていきましょう。必要な外出からの帰宅時の手洗い・うがいとともに食後の歯磨きも徹底していきましょう。

(S.N)

